ネブラスカを襷かけに縦断しました。

Apr. 6 ～ 8, 2007

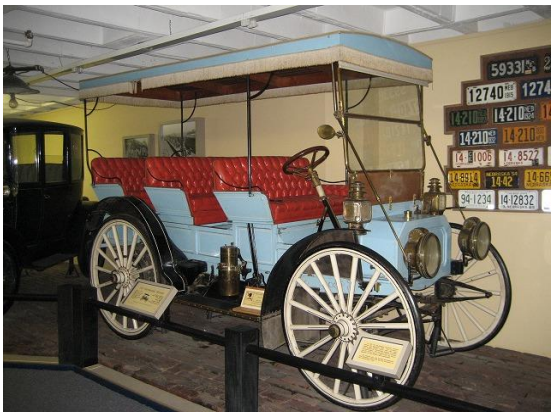
第一日目の写真

久しぶりにI-80を西に走りました。アメリカの高速は75マイル/Hr。
ですが、大体は、5マイルオーバーで走ります。130キロ/Hr、かなりのスピードです。でも、この青空、どこまでも続く真っ直ぐに伸びた高速、こんなところですからあまりスピードを出しているとは思いません。

今回のドライブは、これまでのようにただ走りまくるというのではなく、道々、由緒あるところを尋ねて、すこし文化に勉強しようということで、この日は、まず、Hastingsの博物館に立ち寄りました。ここは、とにかくその収集量がすごい。アメリカ大陸に住んでいる動物、鳥、蝶の標本がところ狭しと並んでいました。それに、鉱物、宝石など、これでもか、これ

これがアメリカに住んでいる鳥たちの標本。もちろん、これはほんの一部。
迫力のあるのは、なんと言ってもワシ、コンドルなどの大型の鳥たちです。
どれだけ、知っているかを見るだけでも、何時間もかかりそうです。
ここには、プラネタリウムもあり、星空の研究もできるようになっていまし

もちろん、ここの売り物は、こうしたオールドモービルです。地下室には、こうした、歴史をもつアメリカの名車が所狭しとならんでいました。なんと優雅なすがたでしょう。

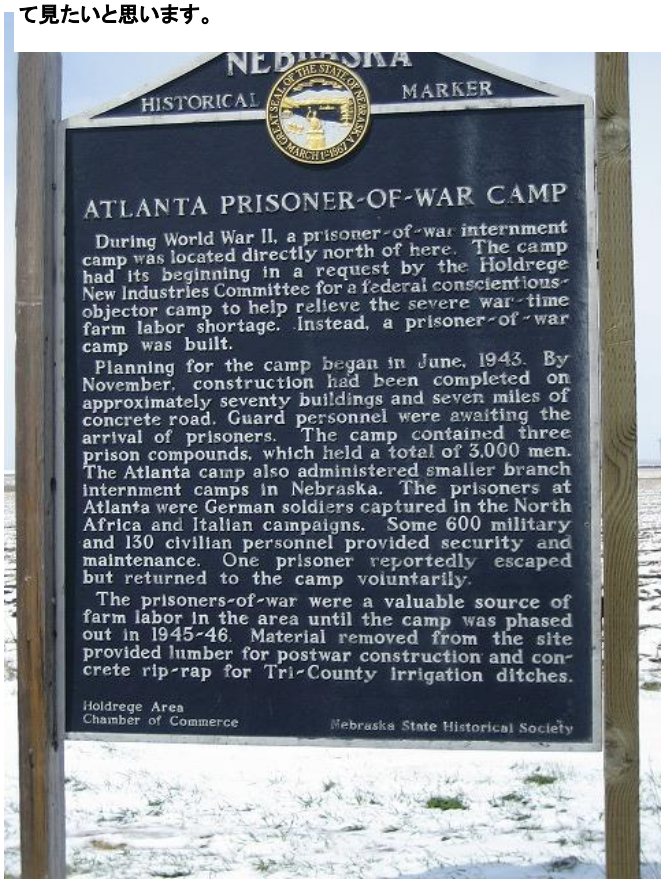


ついつい、うれしくなって、記念写真を一枚。この車をはじめ、ここに展示されているのは、1910年代に作られたものだそうです。日本の明治時代ですね。アメリカでは既にこんな自動車がこの広い大地を走り回っていたわけですね。タイヤが大きいのは、少々のぬかるみでも平気で走られるようになっているのではないでしょうか。

博物館の庭にでると、なんと、なんと、これはミサイルではありませんか。こんな展示物は、日本ならさしずめ軍国主義の象徴としてたちまちのうちに大抗議となるでしょうが、アメリカは、世界の自由主義社会を守っていると自負しています。子供の頃から、こうした展示物を身近にみて、自分たち以外に自由を守ることができる国はないと、その精神を叩き込まれているような気がします。このほかにも、大砲などが平然と展示されていました。

この博物館の入り口には、貨幣の展示室があり、これもまた充実していました。日本では、日本銀行や、東海銀行などの貨幣展示館を見たことがありますが、ここは、こじんまりとしてはいましたが、なかなか見ごたえのある展示でした。中でも、これは、インディアンたちが使っていた貨幣です。「ルイスとクラークの探検」のなかで、インディアンの大事にしていたもの、特に、通商の道具として使われていた、貝殻や、ヤマアラシの棘、それに、青色のビーズなどの

Hastings から、Holdregeの町に、カウンティのハイウェイ6号線を走ります。田舎の田園風景の中を突っ走ります。この当たりから道路わきにちらほら雪が見え出しました。コロラドまでは、まだ、200マイルくらいありますので、すこしこの先が不安になりました。でも、このあたり、道路の舗装はネブラスカにしては、綺麗に整備されていました。とにかくネブラスカは貧乏ですので、高速の舗装が継ぎ足しなんです。二十メートルくらいの盤をつないだようなものです。でも、このため、寒暖の差が大きくても、道路が膨張してうねるようなことがないのかもしれません。道路の設計は息子の善也君の専門分野ですので、一度、専門家の意見を聞いて見たいと思います。



Holdregeの博物館の中の様子。ここにも、アメリカの中西部が開拓されていった時代の生活用品が所狭しと展示されています。こちらは、自然のものの収集というより、毎日の生活の中で使われていたものが中心です。それだけに開拓時代の歴史の証拠物品として非常に高い価値があると思います。この博物館を探すのに随分苦労をしました。回りが学園地区になっており、そこを車でぐるぐるまわされてしまいました。実はこの博物館、この界隈の学校の資料館のような役割を果たしていて、生徒がたくさん見学にくるようです。こうした展示物だけではなく、歴史的な出来事なども紹介されていました。そのひとつが、Atlanta捕虜収容所の展示です。その名前から、どうしてここにAtlanta

この建物も教材の一部として使われているものでした。

Holdregeの博物館の見学を終えて、次の目的地、McCookに向かうハイウェイの途中にHistric Makerがありましたので、ふと立ち寄り、その中身をみて、先ほどの
疑問が解けました。実は、ここにもAtlantaという地名の場所があったのです。そして、ここに、第二次世界大戦のときに、ドイツ軍とイタリア軍の捕虜が集められ、農場の労働者として働かされていたようです。そして、その中から脱走する兵士が居たようですが、ご存知のようにここはアメリカの大平原の真っ只中。どんなに頑強な兵士でも脱走したような身軽さで、この大平原から逃れるのは至難のわざだったのでしょう。結局、その脱走兵は、自発的にまた捕虜収容所に戻ったというようなことが説明されています。インディアナにいたときも黒人が同じような環境にあり、奴隷から開放されるために北部に逃げ出したそうですが、あのあたりの農場では、隠れるところすらないのです。そんなときに逃げ

McCookの町に近づくにつれて、いよいよ雪景色になりました。まだ、コロラドまではだいぶあり、この先が心配ですが、まあ、ゆっくりとドライブしましょう。

逆光で、顔がよく見えないって？
そうなんです。この歳では、いまさら人様に自慢できるような面をしているわけではありませんので。
とにかく、後ろの景色の引き立て役ぐらいにはなるだろうとポーズをとってみました。

これが、McCookの町です。町の中心はこうした石畳のような通りがあり、この両側にコートハウス、たくさんの教会があり、メインストリートを形成しています。もちろん駐車はすき放題です。ここの博物館もすぐ近くまで来ているのに、なかなか見つからず、車を降りて、隣に駐車しているおばさんに尋ねたら、「あそこに見えるでしょ」といった具合。これがアメリカ流なのです。本当に、観光案内なんていうのはないものと思ったほうがベターです。
今回は、事前にインターネットで調べていったのですが、それでも、こんな状態。この先、まだまだ苦労しそう。

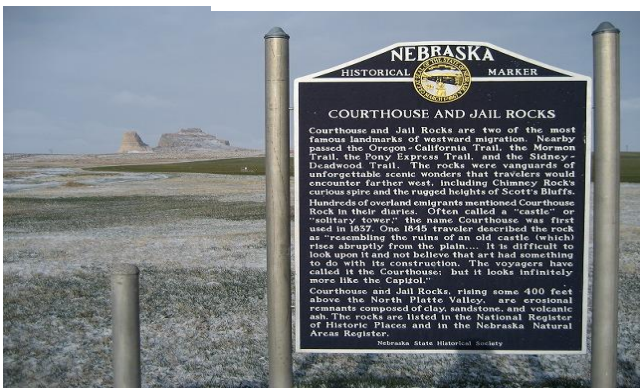
やっと見つけた博物館でしたが、ここの規模は期待していたほどのことはありませんでした。それもそのはず、こうここは、ネブラスカの果てですから。ネブラスカには開拓農民がたくさん入ってきて、農耕生活を始めたのですが、コロラドに近いこのあたりの土地は、あまり肥沃とはいえず、農耕もあまり豊かなものではなかったのではと思われます。そんなわけで、中にあった珍しいオールドカーと並んで記念写真としました。展示してあるものは、個人の収集家が寄付をしたものら

McCookの町の教会。教会は、宗派ごとに違った形をしております。建物をみれば、宗派がすぐにわかるのでしょう。このタイプの教会は、そこらじゅうの町にありますの

そして、一度コロラドに入りました。雪はだいぶ少ないようでしたが、流石にそとは、マイナス10度くらいで、とても外に出られません。I-76のSterlingという町まで
行き、そこから北に向かい、すこしコロラドの雰囲気を味わうつもりでしたが、雲行きが危うくなりそれどころではなくなりました。この日の宿泊地のSidneyまではまだ、数十マイル残っていますので。こ
んな調子で、今回のドライブがスタートしました。第一日目はなかなか充実した博物館を見学することができましたので、ますます、アメリカの大陸文

2日目 （April 7）Sidney ～ Chardon

モーテルで朝、目が覚めると、辺りは白一色。コロラドには昨日、たいへんな寒波のためかなりの雪が降ったらしい。この時期にしては珍しいという。このためか、I-80を走る車は、みなノロノロ運転をしている。この日、予定のKimballは、ネブラスカで一番標高が高い上に、雪の通り道となった西側になるため、さらに雪が多いものと思われる。ここは、雪が少ないとの予想を頼りにまずは北に走ることにした。其れでも、Sidneyはこの雪であった。



チムニーロックと並んで、オレゴントレイルやモルモントレイルの重要な道標となったのがこの岩山、Courthouse and Jail Rocksといわれている。別名、Castleという名前もあるが、1837年に名前がつけられたというから、すでにその頃、西洋人がここを通ってカリフォルニアを目指していたのである。LewisとClarkの探検から、僅か30年しか経たないうちに、ここに西洋人があふれ出し

この岩山には、車で、その直下まで行くことができる。勿論、物好きは、自分の責任でこの岩山に上ることもできるのであろう。どこにも、登山禁止などという標識はない。アメリカ人は自分の責任で判断するたけのこと。ちなみにここは、ノースプラッテ川の川面から、400フィートの高さという。遠くからその偉容を見ることができたというこ

この、車でできたオブジェは、ネブラスカ州の売り物の一つでもある。Allianceと言う街の郊外にあるが、草原の中にポツンと何気なく造られているのが、面白い。回りには、オフシーズンということで、何もなく、ただ、このオブジェだけがアメリカの車

カーヘンジのなかで、この車の林の中に立つと、以外と大きな車でできていることがわかる。確かに、これと同じものを石でつくった大昔の人の知恵と比べると、この作品の意味は比べ物にならないかもしれないが、見る人によれば、これが、何千年の後に、この車でできた

この、車でできたオブジェ、カーヘンジを見て、こんどは西のはずれの29号線に出るつもりでいたが、途中道が見つからず。地図には乗っているのだが、道が消えていた。こんなことはアメリカの地図帳ではよくあることらしい。だからといって、アメリカ中、陸続きだから、ちょっと遠回りをすればよいだけの話し。ここから、Crawfordに向かい、そして、Toadstool Geologic Parkに向かう。

Toadstool Geologic Parkに着くと、この光景である。まさしく、バッドランドの小型版というところか。ここから、トレイルがでていて、途中、恐竜などの化石を掘りながらキャンプをするようだ。とにかく、この自然のなかで、何日も俗世間のことを忘れられたら、これはまた、最高のリフレッシュになるのではないかな。彼らは、ここに車を置いて、何日もこの山のなかを彷徨い

Toadstool Geologic Parkの近くを南北に鉄道が走っている。この辺りで東西に走る鉄道はよく見るが、南北に走るのは珍しい。この踏み切りは勿論無尽。でも、これだけ見通しが良いのであるから、まず、踏み切り事故等おきないのであろう。ちなみに信号はちゃんとついていて、太陽電池を電源として働

Toadstoolへの道は、かなりの凸凹道。わだちがしっかりしているから、問題はないが、殆ど一車線。対向車が来たら、右に行ってよいやら、左によければよいのやら、つい、面食らってしまう。とにかく、四駆ではないので、側道の深みにはまらないように、慎重に走る。前方に見えてきたのが、異様な岩山のToadstool
の公園である。

Toadstoolのこの一体は、かって火山があったらしい。といっても、大昔の話し。丁度、外輪山のように、こんな山が、この公園を囲んでいる、だから、ここに入ってくると、まるで、火星か、月にでもいるような気分になり、同じ地球とは思えないような光景とも言われている。私以外に人影はなく、長居をしているとついつい不安になる。ということで、そそくさとここを後にし

暫くガタガタ道を走っていたら、貨物列車がやってきた。よく、見慣れた石炭を積んで貨物列車である。北行きであるが、石炭を積んでいないところをみると、この北のほうに石炭の産地があるということ。とにかく、この辺りから、西のワイオミングにかけては、天然資源の宝庫といわれている。石炭ばかりではなく、石油もでるし、なんといっても、

ここは、OGLALAという草原地帯としてもかなり有名なところ。見渡す限りの大草原。ここに緑が生え揃ったらそれこそ、絨毯を敷き詰めたような大パノラマが展開するのであろう。この広さ、並みではない。これを管理するにも、手建てがないのでは心配するほどの広さだ。ただ、そこかしこ、雨の少ないのに、

大草原では、これがなくては風情がない。アメリカ特有の風車である。地下に水脈のあるところでは、こうして、少しずつではあるが、水を汲み上げている。とにかく、この風車が遠くから見えたら、カウボーイ達は、一目散にここをめがけて走りよったのではないかと思う。とにかく、「いいねぇー。」と思わず、口ずさんでしまう。

Fort Robinson の裏に聳え立つ岩山。Crawfordの街からよく見える。この砦、かっては、Crazy Horse ,
Red Cloud などがここを舞台に活躍したとのこと。嬉しくなります、こんな名前が出てくると。とりでは、1948年以来、活躍する場がなくなり、今では、ステーツパークとなって、観光地として活躍している。沢山の訓練用のトレイルがあるし、景色は良いので、とても人気があるらしい。それに、当時の、騎兵隊の将校の宿舎が、ロッジとして使われており、ここに

これは、Fort Robinsonの中のホールの建物。ここには、二つのMuseumがあり、かってのインディアン達との戦い、そして、西部開拓で活躍した騎兵隊の歴史が展示されているようです。残念ながら、この日はお休み。そのほか、広々として訓練場、厩舎があり、また、隊員たちの宿舎は、今はロッジとして一般に公開されていて、シーズンには長期の滞在ができるようである。まさしく、別荘に行く気分でバカンスを楽しむことができるとのこと。羨まし

今日の宿泊予定地のChardonに早く着きましたので、ちょっと近くのレゾート地に出かけて見ました。レゾート地といっても、近くを流れる、Neobrara川をせき止めてボート遊びができるというところ。ところが、ここにいくには、田舎道を走らなければなりません。またしても、こんな風景が独り占めできる、大平原のなかを突っ走ることができました。舗装されたハイウェイも気分が爽快ですが、未開拓と思いたくなるような自然が残されたこんな風景のなかで、脱輪しないようにびくびくしながら走るのも、これまた、充実感一杯です。田舎道では、事故の経験があ

草原で草を食む牛の親子。ノンビリしていていいですね。親牛のほうは、車が止まっても平然としていましたが、子牛のほうは、興味深げにこちらに顔を向けて、なにやらいいたそうでした。とにかく、柵はありませんので、親牛を興奮させて、走りだされてはたいへんと、そろりそろりと写真だけ撮り、さよならとしました。この程度の牛の数であれば、異様さはないのですが、これが、一箇所に何百等ともなると、これは、うっかりと近づけないという状況では。そんな経験をこの後何度かしました。

こうして、無事、また、綺麗に舗装されたハイウェイに戻ってきました。ネブラスカでも珍しいほど舗装が綺麗にされいいる道路です。こんなところを走っていると、80マイルだしても、景色が後ろに飛んでいくこともないし、音は静かだし、全然スピードを出しているという感じがしません。これだけ見晴らしがよければ、パトカーも居ないだろうと安心してスピードを出すと、どこからか、やってくるんですね。パトカーも、運転心理をよく分析しているのでしょう。とにかく、田舎道でも時々、捕まっている奴が居ますから、くわばら、くわばら。

というわけで、2日目のドライブが終了しました。この日の走行は、およそ392mileでした。よく、走りました。

三日目　Chardon ～　Lincoln

Chardon ～Hay Springsへ。朝日が逆光になりましたので、一度、引き返して写真を撮りました。すばらしい直線道路。

Gordonという町の一角で。こんなすばらしい建物がちょっとした町には、必ず見つかります。これを探すのも旅

Mari Sand Hill Museum
Museumというので、案内板を便りに砂利道を数マイル走りました。が、辺りには何もありませんでした。あるのはこんな風景。これがもしMuseum なら、アメリカ一広いMuseum かも。

Mari Sandoz Hill Museum　のなかで。丘を越えたところに、こんな素敵な水場がありました。青空と大平原と湖とこんなとこ

これは、高速から見たSand Hillです。高速といってもガードレールがあるわけでなし、自分の車、前後数マイルは車がいないようなところです。こんなところを思い切り飛ばして走るのは、日本では

Mari Sandozの業績を紹介したHistric Maker
ドライブをしていると、道端に突然こうしたマーカーが現れてきます。注意をしていないとうっかり見過ごすことになりますが、この説明書きは、その場所の歴史を知る上ではとても参考になり、ついつい親しみを感ずるようになります。

Ellsworth　からハイウェイ2号線に入りました。
この道は、Lincolnにつながる道で、交通量の多いところですが、このあたり、周りの景色は、ワイオミングやモンタナのような雰囲気でとても素敵でした。その道路の脇を大陸横断鉄道が走っており、まさに、石炭を満載した貨物列車、150輌位を

その鉄道軌道の管理をしている車が線路の上を走っていました。これは、なかなか日本では見られない車。タイヤで走っているのですが、線路の上には、小さな車両がついているようで

ハイウェイ2号線をMullenという町で別れ、再びろSand Hill`の
ハイウェイに入りました。この町にあった住宅の入り口にはこんな飾りがありました。これが普通の家の目印に使われているのには、いささかドキッとしましたが、これがアメリカ魂なのでしょう。

2号線のMullenという町からNorth Platteへの途中。
97号線です。すばらしい、Sand Hillがまだまだ続いています。
この丘が緑の草に覆われるとどんなにかすばらしい光景になるのだろうかと想像しながら、100キロで飛ばします。

`North Platte にあるFort Codyは、西部開拓の拠点。
このあたりから、ワイオミングにかけて、バッファロー・ビルの活躍したところ。残念ながら、この日はお休みでした。インディアンの文化を紹介したお土産を買う積りでしたが・・・。

親亀のうえに子亀を乗せて、子亀の上に孫亀乗せて・・・という文句がありましたが、これは、トレーラーの上に、トレーラーをのせて、そのまた上に、トレーラーをのせて。アメリカの高速ではこうした情景

トレーラーの上に、トレーラーをのせて、そのまた上に、トレーラーをのせてと思っていたら、こんな、引っ張り方をしているトレーラーもありました。これはなかなか珍しい情景です。アメリカ人のユーモア

Kearney でColbesという、アウトドアのショップによるつもりでインターステーツからいったん、カウンティの高速に降りました。
ここは、大型動物の剥製から、鳥の剥製、それに、ハンティングやフィッシングなど、半分、博物館のようなお店と聞いていました。ここもこの日は休み。残念。ということで、34号線をGrand Islandまではしり、トラックステーションに立ち寄る。
となんと、ここの入り口にこんなものが展示されていました。こんなものが街中のお店のパーキングにそっけなく展示されているのですから、こんなものを見ても、なんの抵抗もない感覚が毎日の生活のなかで植えつけられていくのでしょう。これが、アメリカの現実と、見せ付

こうして、無事、Lincolnに戻ってきました。帰りのインたーステーツ
I-80の写真です。ここも、高速がどこまでもまっすぐなところとして有名です。水平線が丸く見えるほどですから、この大陸がいかに広いところか実感できると思います。

三日目の走行距離は、510マイル。816㌔。東京から岡山そして、三日間の走行距離は、1345マイル、2100㌔でした。よく、走りましたが、久しぶりのドライブで、充実、充実。